

長崎短大国際コミュニケーション学科1年



相浦商店街に並ぶ店舗で話を聞く学生

＝佐世保市相浦町

行政や地元住民と連携して1年生約80人が参加。相浦取り組む地域密着型外学習青年会(安永正平会長)のメンバーが案内役となり、商店街に立ち並ぶ店舗や寺、神社、相浦川の飛び石などを歩いて一環。同学科の必修授業で、2年間を通じて相浦・黒島・高島地区の特性を学び、それぞれの活性化策を提案する。

相浦・黒島・高島地区

長崎短大(佐世保市、安部恵美子学長)の国際コミュニケーション学科1年生が17日、同大キャンパス近くの相浦地区を巡るフィールドワークを実施し、町の魅力を探った。

学外学習町の魅力探る

佐世保近郊

県北 対馬 吾岐 五島

を興味深く観察。「時代の変化に合わせて反物がプロハシヤツや和小物を作っている」といった説明を真剣な表情で聞いていた。安永会長は「(4)は「若い視線からのアイディアで相浦地区を元気にしてくれたい」、(3)は「伝統的な町並みが魅力だ」と感じた。どのようにアピールできるか考えたい」と話した。

「Awesome」プロジェクトは、社会人となる上で必要な基礎力の向上を図り、地域の職をまえる人材を育てよと、2015年度から開始。同短大は本年度から4学期制を導入しており、同プロジェクトにインターシンプ(就業体験)や留学など外学習の充実を図っている。



(永江 優子)

＝佐世保市相浦町、洪徳寺や神社などを巡ったフィールドワーク

2年かけ活性化策を提案